

新型コロナウイルス感染症

川口市立医療センター

検査科 さか た ひと み
坂田 一美



新型コロナウイルス感染症の検査と感染予防についてお話しします。

検査は大きく2種類あります。ウイルスにかかっているかを調べる検査(遺伝子を調べるPCR検査やウイルス構成タンパク質を調べる抗原検査)と、ウイルスにかかったことがあるかを調べる抗体検査になります。前者は鼻咽頭拭い液や唾液などを用い、後者は血液を用います。ウイルスの有無を調べる検査は偽陰性や偽陽性がありますが、基本「陽性」は感染していることを意味します。一方、抗体検査は感染後数週を経て作られる抗体を見ているので、疫学調査に用いられます。日本の抗体保有率は欧米に比べて低いことが分かっています。

新型コロナウイルスは症状が出る前後が最も感染力が強く、また、症状がない場合でも感染させることが分かっています。すなわち診断がつく前にすでに人に感染させているおそれがあります。しかし検査は症状がある、あるいは濃厚接触が疑われたかたに実施されます。皆さんが日常生活の中で、感染者を認識することは不可能です。

感染症の最大の防御は人同士が接しないことです。しかしいつまでもそれを続けることは無理があります。従って一般的な感染防止対策(三密を避ける、外出時のマスク着用、手洗い、手指消毒、換気)を徹底していく事が重要であると肝に銘ずるべきです。